私塾と寺子屋教育

那珂市歴史民俗資料館

江戸時代から明治初期にかけての農村での教育は、僧侶や神官・修験者などが師匠となって読み・書き・そろばんを教えた。これが寺子屋教育であり、教え子は寺子と呼ばれた。戦国時代末期に寺院で武士や町家の子弟を教育したことに源流があるので、後には寺院以外の塾も寺子屋といった。主な教科書は「庭訓往来」「実語教」「女今川」「書簡文」など、それらの素読、暗記、書写を中心とする初歩的教育であった。また「論語」「孟子」「孝経」などの儒学を中心とする道徳的なものでもあった。寺子は村内でも役付きの子息か学問好きの子であり、７歳くらいから入門した。塾は寺子屋より一歩進んだ内容の教育であったと考えられる。以下は主な指導者。（写真は「長左衛門鈴木先生之墓」：後台）

原邦明	号は好誼、額田村の人。長久保赤水門人であった太田の立川淳美に師事して学問修業、真率会を設けて「孝経」「論語」を講じて道徳、婦道を指導し、汁講による質素倹約を奨励した。近郷からの子弟百余人を数え、嘉永5年(1852)に門人たちが墓碑を引接寺に建立。「占春亭日記」などを残す。
根本藤兵衛	額田村の人。幼少から学を好み名声は近隣に聞こえた。庄屋職を辞して江戸に出て紀州藩士榊原元軌に師事、帰郷後は詩歌を中心にさらに指導に専念する。四方の雅客墨人が来訪、明治9年(1876)門人300人が鱗勝院に建碑。
奈良原如清・民部父子	鴻巣村宝幢院の修験であった如清は寛政期(1789～1800)に塾を開き、野口・上圷・下岩瀬・上国井など近郷からの門人は400人超といわれる。民部は馬頭村に生まれ、養子となって如清の後を継いだ。天保期に飯田村・戸崎村鎮守の神官となり、門弟265人を数えた。明治3年(1870)歿、72歳。
山田京山	西木倉村生まれ、水戸藩士矢口氏に学ぶ。書画・詩歌をよくし、殊に俳句では宗匠の資格を得た。門人500余人という。大正5年(1916)歿、73歳。
海野家三代 英彦 照睿 瑞彦	海野家は鹿島宇堂山吉祥院の修験者である。英彦は奈良原如清の門人で天保12年(1841)歿。門人は地元をはじめ太田、助川、宇留野など広範囲にわたっている。照睿は英彦の長子で詩歌・俳諧をよくし、算術・医術にも通じた。瑞彦は照睿の長子で幼少より祖父の薫陶を受けた。学制発布後、境内に創設された朋来小学校で教鞭を執る。大正5年(1916)歿、85歳。
中井川量之介	門部村の農民、水戸の青山延光・藤田東湖に師事して和歌・俳諧をよくし、門人200余人。朋来小学校で教鞭を執る。碑は門部圷の共同墓地内にある。
石川貫道	太田増井村の本田家から南酒出村石川家の養子となり関孝和流の和算塾を開く。門人は久慈、多賀、鹿島郡からも集まり、連日30人を超えたという。明治6年(1873)北・南酒出村設置の深耕小学校で数学の教員となる。
藤田安崇	古徳村の神官、文久元年(1862)歿、54歳。藤田屋敷と称する一廓の墓碑には小場、盛金、西金、八田などからの門人84名が刻まれている。
安西覚順	慶応2年(1866)誉田村(常陸太田市)生まれ、71世常福寺住職。寺の入口に耕餘学舎を設け、農閑期を利用して儒学・歴史・唐詩選などを教授、門人ら30～40人が集まり教えを受けた。大正10年(1921)歿、55歳。
斎藤監物、徳親・徳寛、務	斎藤家は静神社神官。監物の子、徳親・徳寛兄弟と徳親の子、務と三代にわたる。監物は桜田烈士。加倉井砂山・藤田東湖に学ぶ。大宮郷校、野口郷校でも教授。
鈴木長左衛門	天保4年（1833）後台村の庄屋、明治元年（1868）歿。青柳村の神官小川伊織に学ぶ。寡言実行、信義に厚い人で近隣の門人ら118人、師恩に報いようと墓碑を建立。